

中学校英語科授業改善に係る研修

日時:平成31年2月14日(木) 13:55~16:30

会場:佐伯総合庁舎 4階 大会議室

参加者:佐伯市内中学校英語科担当教員等22名

佐伯市内の中学校英語科担当教員全員を対象に、

新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善について研修を実施しました。

「新しい小学校外国語教育」～中学入学時にはこんな力が身についている～

講師:佐伯市立明治小学校 校長 福田 優子 氏

講義・演習(70分)



小学校外国語の授業を見よう!

「なめらかな接続」で「適度な段差」に向かうことで、小学校での学習に対する自信をもちながら中学生としてのプライドの芽生えを自覚する

校種間連携は「アプローチ・カリキュラム」と「スタート・カリキュラム」で行う

【 】の中を考えてほしい

新しい小学校外国語教育で学んだ子どもは、【 】な力を身に付けて中学校へ進学する

「新しい中学校学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善」

説明者:大分県教育庁佐伯教育事務所 次長兼指導課長 佐脇 武志

説明・演習(75分)



授業は外国語で行うことが基本となる

生徒が自分の考えや気持ちをお互いに伝え合う言語活動を重視

生徒が「即興のスピーチや説明」ができる力を

文法は、使いながら習得させる

参加者の感想

福田先生のお話は何度聞いても参考になります。正直なところ、大量の資料や文献に目を通すのが大変なので、このような研修でまとめていただくと大変助かります。

小学校の授業のやり方を模索していたので、すごく助かりました。また、テストの新傾向問題を実際に解いてみて、これからどのような授業(取り組み)をしたら良いかを考えるきっかけとなりました。

小学校外国語活動の新しい方向性もわかってとても参考になりました。中学が小学校の学びを受けて、そして、さらに、中学としてどんな力をつけなくてはならないかが、よくわかりました。

かなり気合いを入れて自分の指導方法を変えていかないといけない必要性を感じました。

移行期間中にどのような取組をするべきかをしっかりと考えることができました。また、他校の先生との交流を通じて、自分が思いつくことがないであろう取組なども知ることができてよかったです。